

『洛中洛外図屏風』歴博甲本にみえる内裏とその行事 近藤好和

The Imperial Palace and its Events as Seen in the Rekihaku Kohon "Folding Screens of Scenes In and Around Kyoto"

KONDO Yoshikazu

はじめに

①装束

②立つ場所

③一人

おわりに

【論文要旨】

近年の研究で大永五年（一五二五）の制作であることが解明された、国立歴史民俗博物館所蔵の『洛中洛外図屏風』歴博甲本（以下、「甲本」とする）の右隻第五扇・第六扇には、当時の内裏である土御門内裏が描かれ、その紫宸殿前には男子の正装である東帯姿の公卿と考えられる人物が一名立っている。これはなんらかの行事の場面と考えられる。

『洛中洛外図屏風』の右隻第五扇・第六扇は正月から二月の場面であり、第五扇に渡るが、その行事は正月行事であるに相違ない。しかし、従来、それが何の行事であるかの研究はなされてこなかったし、甲本の内裏そのものの研究もほとんどなされて

こなかった。

そこで、本稿では、その人物の装束である東帯、内裏内の立つ位置、さらに一人で立つ、という三要素を各章に分けて詳細に分析し、甲本の正月行事が、正月節会（そのうちの特に元日節会）の内弁謝座の場面を描いたということ考察した。併せて、甲本の内裏に描かれている建物・施設について、文献や指図から判明する実際の土御門内裏、および甲本と同じく初期『洛中洛外図屏風』と一括される東博模本・上杉本の内裏の建物・施設との詳細な校合を試みた。

【キーワード】洛中洛外図屏風、東帯、土御門内裏、正月節会